

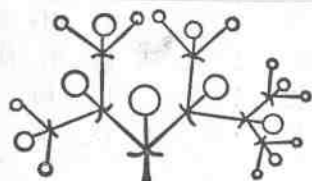
A
DICTIONARY
OF
BOTANICAL
TERMS

HIROKAWA PUBLISHING COMPANY

最新植物用語辞典

— 編 集 —

下郡山 正巳 下村 孟 田中 信徳
原 寛 久内 清孝 門司 正三



東京 廣川書店 發行

最新 植物用語辞典

定価 ¥ 3,500.—

発行者 廣 川 源 治

東京都文京区本郷 3 丁目 27 番 14 号

昭和40年 9 月25日 初版発行

昭和52年10月25日 6 版発行

整版所
印刷

大日本法令印刷株式会社

東京都港区西新橋 3 - 6 - 10

発行所 株式会社 廣 川 書 店

東京都文京区本郷 3 丁目 27 番 14 号

振替東京 82694 番

電話東京 (03) (815) 3651 (代表)

自然科学書協会員・高等教科書協会員

Hirokawa Publishing Co.

27-14, Hongō-3, Bunkyo-ku, Tokyo

まえがき

学問の進歩に伴って学術用語も新しく生まれたり意味が違ってきたりする。これをわかりやすくまとめた書があると大変便利であるとは誰もが考えることである。古くは明治 34 年(1901) 6 月に大久保三郎、齊田功太郎、染谷徳五郎等が「植物名彙」を出版したが、それからすでに 60 余年を経過している。この間、形式や内容が多少異なる数種のものが発行されたが、現在ではいずれも稀少になり、たやすく入手できなくなっている。そこで多少なりともこの欠陥を補いたいとの意味でこの出版をあえてした。しかし、とりかかってみると、このような仕事は容易なことではなく、一方編集期間にも限度があるので意にみたくない点もあるが、一応この程度のもを刊行することにした。今後さらに改訂追加が行なわれることを期待する。

本書の発行に際して、種々御尽力を頂いた廣川書店社長廣川源治氏、校正、索引の作成等に御協力を頂いた河合喜和子嬢はじめ編集部の皆様には厚く感謝する。

昭和 40 年 9 月 1 日

編 者

凡

例

1. 本書の収載項目は5,000余に達しているので、文部省編「学術用語集・植物学編」は勿論のこと、これに洩れているもの、新しい用語についてもできるだけ広く収めた。

2. 各用語はアルファベット順に配列し、同義語、旧用語は→で用語を示した。

3. 各用語にはそれぞれ英・独・仏・ラテン語をできるだけ併記した。

4. 英・独・仏・ラテン語の索引を示し使用の便に供した。

5. 説明の完全を図るため100余の図版を挿入した。

— 索引・目次 —

英 語	561~606
ドイツ語	607~642
フランス語	643~659
ラテン語	661~668

付 表

植物科名の標準和名 669~679

A

AE → アベナ単位

A sensyokutai A 染色体 → 常染色体

A-s₀ A 層 A-horizon <英> A-Horizont <独> A₀ 層の下にあり気候、植物、耕作などの影響を直接受ける表層土。一般に腐植により暗色になっている。

A₀-s₀ A₀ 層 A₀-horizon <英> A₀-Horizont <独> 新鮮な落葉、落枝その他植物遺体および、その分解の中間過程のものが地表にたい積してできている層。分解の程度により L, F, H の3層に区別される。

a- 亜-〔命名上の〕 sub- ある分類群を細分して名をつけるために、その下の階級が必要になったときには亜をつけて用いる。例：亜科 (subfamilia), 亜変種 (subvarietas)。

abena-tan'i アベナ単位 *Avena* unit <英> *Avena*-Einheit <独> unité avoine <仏> AEと略する。試験材料から拡散によってオーキシンを含有させた 2 mm³ (2×2×0.5) の寒天片を、アベナ子葉しょうの切り口の片側にのせて、22~23°C、湿度 92% に保ち、2時間後に、屈曲度 α を計測する。 α が 10° のとき、寒天中のオーキシンを含量を 1 AE という。

abena-tesuto アベナテスト *Avena* test <英> *Avena*-Test <独> test avoine <仏> マカラスムギ (*Avena sativa*) の芽ばえの伸長帯が生長促進物質に敏感に反応することを利用したオーキシンの定量法をいう。子葉しょうを用いたアベナ伸長法、アベナ屈曲法、根毛を用いた試験法などいくつかの定量法がある。

aengantai 亜沿岸帯 sublittoral zone, sublittoral region <英> sublittorale Region <独> 湖沼では沿岸帯と深底帯の間の部分、海では水深約 50~200m の部分。

agunsô 亜群そう(叢) → 亜群集

agunsyû 亜群集 subassociation <英> Subassoziation <独> sous-association <仏> 植物群落の分類単位の一つ。同一群集の中で、識別種で区別される群落。

akami 赤身 → 心材

akantai 亜寒帯 subarctic zone <英> subarktische Zone <独> 気候帯の一つ。一年のうち、平均気温 10°C 以上の月が4カ月以上ある地域。針葉樹林が発達し、落葉広葉樹が多少混生する。

akasio 赤潮 red tide, akashio, red water, discolored water <英> 海、ことに湾などの海面近くで、プランクトンが一時的に急激に繁殖するために海水の色が赤かっ色を呈することがある。これを赤潮という。

akineto アキネート akinete <英> Akinete <独> ラン藻類や緑藻類などの藻類に見られる特殊な生殖細胞。栄養細胞が養分を多量に貯えて大形となったもので、そのまま発芽して直接に新植物を生ずる場合と、多数の游走子を生じそれが新植物となる場合とある。

akōsetutai 亜恒雪帯 subnival zone, subnival region <英> Subnivalstufe <独> zone subnivale <仏> 山岳の垂直分布における恒雪帯の下
の雪線に近い部分をいう。

akōzantai 亜高山帯 subalpine zone <英> subalpine Stufe <独> zone subalpine <仏> 山岳の垂直分布帯の一つ。山地帯と高山帯との間の部分。厳密には山地帯の上限から森林限界までの部分をいう。

akurihurabin アクリフラビン acriflavin <英> アクリジン系の色素の一つ。微生物に低濃度で作用させると、多くの場合各種エビゾームを細胞から除去する（または不活性化する）ことが知られ、微生物遺伝学の研究上利用価値が大きい。

akyokusō 亜極相 → サブクライマックス

amēba-undo アメーバ運動 amoeboid movement <英> amöboide Bewegung <独> mouvement amiboïde <仏> 移動運動中、はふく運動に属する運動。原生動物のアメーバに典型的にみられる運動であることからこの名がある。他物に付着し、偽足をだして刺激や食物に対して移動する。動物では原生動物や高等動物の白血球、組織培養下の細胞などに広くみられるが、植物では変形菌類の変形体がこの運動を行なうことのほか、あまり例は知られていない。

amido-syokubutu アミド植物 amide plants <英> Amidpflanzen <独> アンモニアを過剰に吸収、蓄積した場合に、その大部分をアスパラギ

ン、グルタミンのようなアミドの形で蓄積する植物。マメ科植物はその例である。

amino-daturi アミノ脱離 → 脱アミノ

amino-tenka アミノ添加 amination〈英〉Aminierung〈独〉amination〈仏〉 アミノ基の生成反応。脱アミノの逆反応とも考えられ、アミノ化ともいう。生体内でアンモニアがアミノ酸の α -アミノ基となるおもな反応はグルタミン酸脱水素酵素によるもので α -ケトグルタル酸にアミノ添加が起こりグルタミン酸が生ずる。またアラニン脱水素酵素によってもピルビン酸にアミノ基が添加される。微生物、高等植物ではアスパルターゼによってフマル酸にアンモニアが添加してアスパラギン酸を生ずる反応もある。このほかアミノ基転移反応によってもアミノ基の脱離と同時にアミノ基の添加が起こる。

amiraze アミラーゼ amylase〈英〉Amylase〈独〉amylase〈仏〉 多糖類の 1, 4'- α -グルコシド結合を加水分解する酵素の総称。

amiroido アミロイド amyloid〈英〉Amyloid〈独〉amyoïde〈仏〉 ノウゼンハレン、ハウセンカその他の種子には、青色のヨウ素反応を示す膜物質があり、これをアミロイドという。

amiropurasuto アミロプラスト amyloplast〈英〉Amyloplast〈独〉貯蔵でんぷんの形成に関係する白色体。若干葉緑素を含み、葉緑粒への過渡期的なものを示すものがある。

amoruhu アモルフ amorph〈英〉 ある形質の発現に関して遺伝子の機能が全く不活性であるようなもの。ただしそれはその形質においてだけで他の形質については活性であるかもしれない。コナマダラメイガの幼虫の皮膚は a^+/a^+ で黒、 ak/ak , a/a で無色、すなわち ak および a 遺伝子はアモルフだが成虫の眼色では a^+/a^+ が黒、 ak/ak がかっ色、 a/a が紅色でアモルフではない。

an-bussitu 暗物質 dark substance〈英〉Dunkelstoff〈独〉 植物の生長はオーキシンと同時に他の物質の共存を必要とし、Dolk(1936)や Cordes と Laibach(1936)はこの第二の生長要因が、光合成の暗反応において生成される物質であると主張し、これを暗物質と名づけた。

andoroterumon アンドロテルモン androtermone〈英〉Androtermon〈独〉 Moewus, Kuhnら(1940~1947)によって名づけられた *Chlamy-*

A *domonas* において雄性を決定する物質。サフラナール (サフランの柱頭から得られる) およびその酸化物がアンドロテルモンとしての作用をもっているといわれる。雌性決定物質はギノテルモン (英 gynotermone) と呼ばれる (しかしこれらの物質の作用は一般の承認を受けていない)。

a'-nettai 亜熱帯 subtropical zone <英> subtropische Zone <独> 気候帯の一つ。年平均気温が 20°C 以下で月平均気温 10°C 以下が4カ月以内の地域。年平均して雨の多い地域には常緑樹林が、雨期と乾期が交代する地域には落葉樹林、さらに雨量が少ないと草原が発達している。

a'-nettai-taurin 亜熱帯多雨林 subtropical rain forest <英> subtropischer Regenwald <独> 亜熱帯の多雨地方 (年間 1300 mm 以上) に発達する常緑の森林。

angô-toki-côdingu 暗号解き coding → コーディング理論, 遺伝情報。

an-hannô 暗反応 dark reaction <英> Dunkelreaktion <独> 光合成の過程中光が関与しない反応段階をいい、明反応に対して用いられる。 CO_2 固定と還元が含まれ明反応と違い著しく温度の影響を受ける。バクテリアと高等緑色植物とは多少異なるが、(→ 光還元, 光合成), 主要反応は五炭糖リン酸 (ribulose-5-phosphate) に炭酸が結びつく反応とその反応による生成物 (glyceric acid-3-phosphate) が助酵素 ($\text{NADPH} + \text{H}^+$) により還元され三炭糖 (glyceraldehyde-3-phosphate) ができる反応である。

an-hatuga-syusi 暗発芽種子 dark germinater, light inhibited seed <英> Dunkelkeimer <独> 暗黒下で発芽の促進される嫌光性の種子。ヘセリソウ科, ユリ科の多くの種, ネギ属, クロタネソウ属などの種子がこれに属する。

anion-kokyû アニオン呼吸 anion respiration <英> Anionenatmung <独> 根からイオンが吸収される機構を Lundegårdh は次のように説明した。原形質は一般に負に帯電しているので陽イオンはクーロン力で吸着され当量の H^+ と交換されればよいが、陰イオンの場合は特にエネルギーを必要とし、このエネルギーは呼吸との共役によって供給されると考えた。この呼吸を通常の基本呼吸と区別してアニオン呼吸という。

anki 暗期 → 光周性

anmonia-syokubutu アンモニア植物 ammonia plants <英> Ammoniakpflanzen <独> → 酸植物

an-seityō-hannō 暗生長反応 dark-growth reaction <英> Dunkelwachstumsreaktion <独> 長時間光の下にあった植物体が暗所に移されると、比較的短時間でその生長の抑制がみられることがある。これを暗生長反応といい、*Phycomyces* の孢子囊柄でこれがみられる。→ 光生長反応

ansui 暗酔 Dunkelstarre <独> オジギソウの葉が、暗黒下に長時間おかれると、刺激に対する反応能力を失うこと。

antei-gunraku 安定群落 stable community <英> 長期間にわたって変化しない安定した群落。

anteiki 安定期 → クライマックス

anteisei 安定性 homeostasis <英> Homöostasis <独> homéostasie <仏> ホメオスターシス（系の恒常性）ともいう。生物体の内部環境が外界から独立し、外界が変化しても一定の状態を維持すること。そのための調節機構にはホルモン系、神経系、炭酸ガス、水素イオンなどの化学物質系が関与している。

antimoruhu アンチモルフ antimorph <英> 完全ではないがある形質の発現に活性があり、しかも他の遺伝子（対立遺伝子）と組み合わせると抑制的に働くような遺伝子。すなわちシ₂ウジ₂ウバエの +⁴⁴ 遺伝子では +/+>ci/ci|ci>ci/ci>ci であるが（ハイボモルフ）ci と + を組み合わせると ci 座位に欠失のあるものと + とのヘテロの方が活性が高い。すなわち +/+>+/_def>ci/+

antosian アントシアン anthocyan <英> Anthocyan <独> 顕花植物の花、果実、葉などに含まれる一群の色素で、フェノール性の物質。本体アントシアニジンの配糖体アントシアニンをさすこともあるが、普通はこの両者の総称名。通常アントシアニンの形で細胞液中に溶存する。化学的には酸性で赤、アルカリ性で青～黄、中性で紫色を呈するが、生体内での色の変異はこれだけでは説明できない。

apogamii アポガミー apogamy <英> Apogamie <独> 無配生殖、単為生殖。卵が受精して造胞体を作るという普通の生殖方法をとらない

で、配偶体の卵以外の細胞が発育して造胞体を作る現象。

apo-ripuressā アポリブレッサー apo-repressor <英> → 主抑制体
aposporii アポスポリー apospory <英> Aposporie <独> 無孢子生殖、無子生殖。孢子によらないで造胞体の栄養細胞から直接配偶体を作る現象。

appen-no 圧偏の depressed <英> niedergedrückt <独> déprimé <仏> depressus <ラ> 上から押えつけて平偏になったような形のもの。

appukumō 圧伏毛 → 伏毛

areropati アレロパティー allelopathy <英> Allelopathie <独> allelopathie <仏> 広義には植物と他の動植物との間の相互の働きあいをさす。したがって共生も寄生も含まれる。狭義には、ある植物が生産する化学物質が近接する他の植物の発芽や生育に何らかの影響を及ぼす現象。

areru アレル allele <英> → 対立遺伝子

arerukan-no-sōhosei アレル間の相補性 interallelic complementation <英> 異なる allele を同一細胞質中でトランスの形に組み合わせるとき、野生型またはそれに準ずる形質を示す現象。たとえば単独ではある酵素の活性を示さない二つの生化学的突然変異体を組み合わせた異型多核体がその酵素の活性を示す場合。

ari-syokubutu アリ植物 myrmecophytes, ant plants <英> Myrmekophyten, Ameisenpflanzen <独> plantes myrmécophiles <仏> 体の一部に巣を作ったアリと共生する植物。植物はアリに巣を与え、アリは植物を動物から保護すると考えられる。ジャワの森林に産するアリノストリデ *Myrmecodia tuberosa* はこの例。

arometorii アロメトリー allometry <英> Allometrie <独> allométrie <仏> → 相対生長

aro-taipu-hyōhon アロタイプ標本 allotype <英> 雌雄が別株の植物において、正基準標本と反対の性のものの基準標本をいう。

arozin アロジーン allogene <英> → 始原遺伝子

aruenuē アールエヌエー RNA <英> RNS <独> ARN <仏> → リボ核酸

arukari-dozyô アルカリ土壌 alkali soil〈英〉 Alkaliboden〈独〉 sol à alcalis〈仏〉 アルカリ塩類特にナトリウムの集積されている土壌。一般に半乾燥地帯に多い。

arukari-syokubutu アルカリ植物 alkali plants〈英〉 Alkalipflanzen〈独〉 アルカリ土壌に特異的に見られる植物で *Suaeda*, *Salicornia* 類などがある。

arukaroido アルカロイド alkaloid〈英〉 Alkaloid〈独〉 窒素を含有する塩基性植物成分で著しい生理作用と苦味を有する。その構造の多くは炭窒素から成る異項環化合物で、酸と結合して塩を生成する。例：モルヒン、ストリキニン、アトロピンなど薬用としても重要。

arukirukazai アルキル化剤 alkylating agent〈英〉 アルキル基 (C_nH_{2n+1}) を他の物質に与えることのできる有機試薬。マスタード類、エポキシイド類、アルキルスルホン酸など。核酸と反応してプリンやピリミジン基をアルキル化し、突然変異を誘起する。

arukôru-hakkô アルコール発酵 alcoholic fermentation〈英〉 alkoholische Gärung〈独〉 fermentation alcoolique〈仏〉 酵母その他の微生物にひろく見られる無酸素呼吸の一種で、次式のように糖からエタノールと炭酸ガスを生成する。 $C_6H_{12}O_6 = 2 CH_3CH_2OH + 2 CO_2$ この反応で正味2個の ATP が生成する。

aru-kyû RQ → 呼吸率

aryûron アリューロン aleurone〈英〉 たんぱく質の一種で液泡中に溶解した状態のものが、脱水されて他の液泡構成要素とともにその溶解度に従って順次に析出し最初フィチンのマグネシウム-カリウム塩を含む不溶性のたんぱく粒である“globoid”を沈殿し、貯蔵たんぱく質となる。構造たんぱくとしてのアリューロンはさらに格子状の結晶体を作る。

aryûron-ryû アリューロン粒 aleurone grain〈英〉 Aleuronkorn〈独〉 種子の胚乳細胞や子葉中に貯蔵物質として存在するたんぱく質性の粒。径1~60 μ の大きさで、たんぱく質性の被膜でおおわれた内部には主としてグロブリンから成る基礎物質を有し、さらに球晶体や仮晶体をしたたんぱく質の結晶、フィチンを含むグロボイド、ときにはシュウ酸

カルシウムの結晶などを含んでいる。例：トウゴマのアリュールン粒には球晶体、仮晶体、グロボイドを含み、ブドウではシュウ酸カルシウムの結晶のみを含む。マメ類の子葉中に見られるものにはグロボイドがない。

aryûron-sô アリュールン層 *aleurone layer* 〈英〉 *Aleuronschicht* 〈独〉
アリュールン粒を多量に含んだ細胞の層で通例 1~2 層、4 層に及ぶものもある。多くの種子の外周辺にあるが特にイネ科の種子に多く、種皮に接して存在し、事実上内種皮に相当する部分がアリュールン層となる。

asenahuten アセナフテン *acenaphthene* 〈英〉 核分裂毒の一種。酵母、菌類および高等植物の倍数体の誘導剤として用いられる。

asetokâmin アセトカーミン *aceto-carmine* 〈英〉 *Acetokarmin* 〈独〉
→ 酢酸カーミン

asini-zassô 脚荷雑草 *ballast-weed* 〈英〉 船の底荷、すなわちバラスト(脚荷)などの土砂に紛れ込み、侵入した雑草の意。よそからきた植物をいう。→ 帰化植物

asosieisyon アソシエーション *association* 〈英〉 → 群集

assaku-kôbo 压榨酵母 *pressed yeast* 〈英〉 大量に培養した酵母を集めて、そのまま压榨し成形したもの。休眠状態で生きているので、適当な条件を与えればいっせいに活動するので、生化学の実験によく用いられる。これに対して乾燥酵母がある。

asyôsankin 亜硝酸菌 *nitric bacteria, nitrite-forming bacteria* 〈英〉
アンモニアを酸化して亜硝酸にする能力をもつ細菌。(NH₃+3 O→HNO₂+H₂O)。土壌細菌のだ円形でべん毛をもつ *Nitrosomonas* とかん状の *Nitrosococcus* などがその代表的なものである。こうして作られた亜硝酸を硝酸にする硝酸菌があり、両者を合わせて硝化菌と呼ぶ。

asyu 亜種 *subspecies* 〈英〉 *Unterart, Subart* 〈独〉 *sous-espèce* 〈仏〉
subspecies 〈ラ〉 分類群における種のすぐ下の階級である。ある時は種と同じくらいにはっきり区別できるがわずかな中間形によって連続するような場合に用いられ、あるときははっきりと分布地域が異なるような変種を亜種とする。現在では学者によってかなり用い方が違っている。略号は *subsp.* または *ssp.*

ateiboku 亜低木 subshrub <英> 一般に草質茎を有する小低木.

ato-kangen あと(後)還元 post-reduction <英> 成熟分裂の第二分裂が還元分裂であるもの. すなわち二価染色体は, 第一分裂後期で接合したまま均等分離をする. ある種の昆虫 (Hemiptera) や *Luzula* 属植物で知られている. →還元分裂, 前還元, 第二分裂分離.

atomométa アトモメーター atmometer <英> Atmometer <独> atmomètre <仏> 蒸散計. 湿った表面からの水の蒸発する割合を測定する装置. 葉面からの蒸散と比較するために用いられる Livingston 式蒸散計で蒸発部は素焼の陶器でできている.

aturyû-setu 圧流説 Druckstromtheorie <独> 師管内における同化物質の転流はかなりすみやかであるが, この現象を説明するために Münch (1930) がたてた説. この説によれば, 師管内での物質の移動は, 植物体の各部分の液圧の差によって師管内に液の流動が起こるためという.

atyôkantai 亜潮間帯 subtidal zone <英> 浅海区の中の潮間帯と下部浅海区との間の部分.

ayûsensyu 亜優占種 subdominant species <英> Subdominanzart <独> espèce sous-dominante <仏> ある優占種により特徴づけられる群集がさらに細分されるとき, それぞれの区を代表する種類. 群集の中で下層の分層群落 (→シヌシアの項) の代表者がこれに相当する.

B

B sensyokutai ビー染色体 B chromosome <英> → 過剰染色体

B-sō B層 B-horizon <英> B-Horizont <独> 土壌のA層の下部にある層で、上下の層より機械的・化学的に物質の集積がみられる。一般に乾燥、半乾燥地帯ではB層の発達が弱く、B層を欠くことが多い。土壌物質固有の色がB層に現われる。

baiōmu バイオーム biome, biotic formation <英> biotische Formation <独> 生物群集ともいう。植物と動物とを総合した生物群集の1単位。一定の環境と一定の地域的ひろがりを持ち、特定の生物相を含み、特徴ある生活形をそなえて、相親的に識別されるもの。

baio-taipu バイオタイプ biotype <英> Biotypus <独> 種の中で、遺伝的に同一の形態を示す個体群の中で最も小さいものをいう。種の大部分は多数のバイオタイプからなっている。

baiotoron バイオトロン biotron <英> Biotron <独> 温度・湿度・明かるさ・空気中のCO₂の濃度などを任意に調節できる、動物・植物を飼育・培養するための施設。植物を育てる phytotron と動物を飼育する zootron とがある。

baisekuto バイセクト bisect <英> 群落の中に線をひきそれによって垂直方向の断面図を作る群落統計法の一つ。

baistsei 倍数性 polyploidy, ploidy <英> Polyploidie <独> polyplödie <仏> 一倍性の整数倍の染色体数をもつとき倍数性、整数倍以外の数をもつとき異数性という。普通は倍数性を倍数性と呼んでいる。同じゲノムが倍加している場合、同質倍数性、違うゲノムがはいっているとき異質倍数性という。

baistsei-ikusyu 倍数性育種 polyploidy breeding <英> Polyploidie-züchtung <独> 倍数体のもつ性質を利用する育種。倍数体の示す形態の増大、含有物の増加、不ねん性などを利用する場合が多い。四倍体トマトがビタミンCを多く含むこと、三倍体のタネナシスイカなどはその例である。

baisûtai 倍数体 *polyploid* 〈英〉 倍数性を示す個体。二倍体以上のものを倍数体と呼び、偶数倍数体と奇数倍数体がある。また同じ基本核型の倍数であるかどうかにより、同質倍数体と異質倍数体に分けられる。倍数性を示す種が自然界で見いだされるが、コルヒチンなどを用いて人工的に作り出すこともでき、特定の同質倍数体では二倍体に比べ形質が改良されることもあり、また奇数倍数体では普通ねん性の低下も農業育種に利用される。

baiti 培地 → 培養基

baiyô 培養 *culture* 〈英〉 *Kultur* 〈独〉 *culture* 〈仏〉 動植物や微生物または動植物の一部分を外的条件たとえば温度、浸透圧、水素イオン濃度、栄養物質などを人工的に作りその下で発育増殖させることをいう。培養しようとする生物の種類によって種々の培養基が考案されている。

baiyôeki 培養液 *culture solution* 〈英〉 *Kulturlösung* 〈独〉 → 培養基。動植物や微生物や動植物の一部分を人工的条件下で培養する際に培養基が必要であるが、この培養基には固体培養基と液体培養基の二種類があり、後者の培養基のことを培養液ともいう。高等植物の水栽培に用いられる培養基はもちろん液体培養基であるが、その他発酵工業や抗生物質生産の目的で大量に微生物を培養するときなどは液体培養基のほうが都合がよい。

baiyôki 培養基 *culture medium* 〈英〉 *Nährboden* 〈独〉 *milieu de culture* 〈仏〉 培地。微生物や組織の一部を発育増殖させるために必要な栄養物を組み合わせて作ったものである。一般に炭素源、窒素源、無機塩類、発育因子の組み合わせから作られる。特に細菌の培養には肉汁や血清などが、カビの培養には麦芽エキスなどが用いられている。→ 培養。

bakuga 麦芽 *malt* 〈英〉 *Malz* 〈独〉 *malt* 〈仏〉 オオムギあるいはコムギの種子を水に浸し 50~60°C で発芽させたもの。腐敗を防ぐため乾燥して麦芽粉とする。まだ用途としては麦芽エキスとして微生物の培地に、ジアスターゼを多く含みでんぷんを糖化するために、ビール醸造、アルコール、あめの製造に用いられる。

bakuteria バクテリア *bacteria* 〈英〉 *Bakterien* 〈独〉 *bactéries* 〈仏〉 最も下等な植物の群を分裂植物と呼ぶが、さらにこれを分裂菌類と分裂藻類とに分ける。バクテリアとは分裂菌類の別名であって形態からかん菌、球菌、らせん菌の3群に分類されている。